

拝啓 残暑お見舞い申し上げます。今年も早や8月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今はさるすべりの花が咲いています。

今回は、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』引用の第2回目で今回のエンカウンターの1頁には、次のように書かれています。

「十字架と復活がパウロの一枚看板

パウロの主張は神の恵みに尽きています。また、神の恵みということは、これは具体的に言えばイエス・キリスト。パウロの中心思想は、キリストです。もっと具体的に言えば、十字架と復活であります。パウロは、コリント前書で、「自分は十字架につかれ給いしキリストのほかには何事も語ろうとはしない」と言いました。十字架の贖いは復活によって成就したのですから、復活と言っても良い。十字架と復活がパウロの一枚看板であります。この信仰の客体である十字架と復活は、我々には信じにくい。イエスが山上の垂訓において、「真の命に至る道は、狭く、細い、これを見出す人は少ない」と言われました。この十字架の福音から、離れようとしつつあるのは、それを教えた偽教師も悪いが、人間には、そういうものを信じない、あるいは信じても、それから離れるという傾向にある。パウロはそれを責めているわけであります。」

内村先生や小西先生が説かれた、十字架の福音、復活の福音は、なかなか容易ではないということが分かります。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』8月19日

「良く始めることは、半分成就したこと

私は、テレビで相撲を見るのが好きである。

勝負は、最初の立ち上がり方でほとんど決まってしまうという。人生もまた、そうであると思う。今日の一日は、どうして始めるかによって決まる。

今日一日をどうして始めるかを注意しようではないか。毎朝、天国に一日近づいたことを神に感謝する祈りと、主の御名を呼びつつ、今日一日の義務を尽そうとする決心とをもって起き上がろうではないか。」

新渡戸稲造先生『一日一言』8月7日

「同じ人を匹夫にするか豪傑にするか、小人にするか君子にするか、どちらにも作り上げる力は、だれしも必ず出会える落胆失望の時に起こる一決心にあるのである。最後の15分に来て、もう駄目だとたおるる者はそれきり。もう一つと立ち上がれば後はしめたもの。

弓も折れ矢もつきはつる所にて

さしもゆるさで強くいて見よ」

松下幸之助先生『道をひらく』「世の宝」

「世の宝は何も秘蔵の名器だけでは無い。おたがいに与えられている日々の仕事は、これすべて世の宝である。世の宝と観じて、私心にとらわれることのない働きをすすめてゆくために、〔明智左馬之介〕光春のふるまいを今日もなお、大いに範としたいものである。」

内村鑑三先生『統一日一生』7月30日

「キリストは聖霊である。聖霊はキリストである。ゆえに聖霊を受くるはキリストを迎うるのである。われら聖霊をうけんと欲して雲をつかまんと欲するのではない。われらはある確実なる目的を達せんとするのである。われらはキリストをわが心に請ぜんとするのである。これに適當の準備がいる。適當の方法がある。準備はへり下ることである。方法は、絶えず祈ることである。しかしてこの準備をなし、この方法をつくして、彼の到来（じゅらい）は確かである。」

バークレー先生「ウイリアム・バークレイの一日一章」（8月9日）

「一歩（2）

何百年も前に旧約の伝道者がいったように、「かならずしも速い者が競争に勝つのではなく、強い者が戦いに勝つでもない（伝道の書9・11）着実な努力が、結局、断続的な才気よりもはるかに多くのことを達成するのである。

誰でも人生上の諸困難に圧倒されることが往々にしてあるものだが、そのような時ただ座って困難を眺めてはいけけない。とにかくどこでもいいからスタートしなければならない。つぎの仕事のことは考えず、手元にある仕事に集中しなければならない。

なにかを本当に達成するのは、たゆみない着実な努力であって、断続的な才気ではないということ、忘れてはならない。」

カウマン先生『山頂を目指して』8月5日

「あなたの周囲の世界が目覚まし、活動し始める前に、朝早く、一日の準備をなさい。夜明け前にひとときは、一新の時である。早朝の静寂は、一日を通じて、祝福としてとどまることであろう。その静寂の中で、あなたの心を開き、あなたの魂を神に支配して頂きなさい。あなたの神との交わりのひとときを、森の中にただ一つ咲いている野ばらのように、単純な、芳しいものとしなさい！」

本誌の読者の佐藤昭夫さんから、小西先生のこれまでに出版された聖書講解説教集を、エンカウンターでも読めるようにして欲しいという依頼を受けて、出版社の横濱大氣堂及びウェブサイトを管理して頂いている兵庫県加古川市の船倉昌之さんに問い合わせたところ、出来るという事でしたので、エンカウンターの9月号から、おおむね3カ月ごとに

1冊ずつ、説教集をエンカウンターに掲載し、スマホ、パソコンで説教集が読めるように致します。私はもともと小西先生の説教集を全集の形で残しておきたいという気持ちを持っていましたが、この試みは、全集に代わるものとなるかも知れないと思っています。9月号には、小西先生の『わが主イエスよ——恵心流キリスト教・説教集』を掲載します。どうぞ、「エンカウンター」のウェブサイト (<http://encounter.agape.wjg.jp>) を開いて、スマホかパソコンで、読んでみてください。旅行中でも、世界中で読めるはずです。

新型コロナは、第5類という扱いになりましたが、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされているの方が半分ほどおられます。しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときに実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

8月22日

山口周三

エンカウンターの読者各位